

## ホープBTC公開講義 「ミッションセンターとなる教会の備え」

「さて、アンティオキアには、そこにある教会に、バルナバ、ニゲルと呼ばれるシメオン、クレネ人ルキオ、領主ヘロデの乳兄弟マナエン、サウロなどの預言者や教師がいた。彼らが主を礼拝し、断食していると、聖霊が「さあ、わたしのためにバルナバとサウロを聖別して、わたしが召した働きに就かせなさい」と言われた。使徒の働き13:1-2

### ①主に仕える文化を築く（礼拝中心）

使徒13:2「彼らが主を礼拝し、断食していると」

宣教は、人間的な知恵や方法によって始まったのではなく、礼拝から始まりました。アンティオキアはまず、主に仕える教会でした。

台湾やオハイオとの繋がり。宣教戦略会議として集まりますが、することは礼拝です！礼拝することで宣教のビジョンが拡大していきます。

【世界に影響を与える教会は、まず主の前にひざまずく教会です。】

準備準備

- ・礼拝を中心に置く
- ・神の声を聴く時間を守る
- ・祈りを優先順位の上位に置く

### ②多様性を受け入れる器になる

使徒13:1には、多様な背景を持つ指導者たちがいます。

- ・バルナバ（キプロス）
- ・シメオン（ニゲル）
- ・ルキオ（クレネ）
- ・マナエン（ヘロデ家系と関係）
- ・サウロ（パリサイ派）

民族も文化も違う。異文化によるブレイクスルーがあります。

【グローバルな教会は、均一ではなく、多様です。】

準備

- ・違いを恐れなくて理解する
- ・世代・文化・背景を受け入れる
- ・「日本流」に固執しないで、でも良い意味で日本の文化を用いる

### ③人を育て、送り出す覚悟を持つ

アンティオキアは、最も有能な二人（バルナバとパウロ）を送り出しました。

普通なら「手放したくない」人材です。

【ミッションセンターは、人を囲い込む場所ではなく、送り出す場所です。】

準備

- ・弟子訓練に時間とお金をかける
- ・次世代を立てる
- ・自分たちのためだけに留めない。遣わす教会

#### ④いつも聖霊さま主導の決断をする

使徒13：2-3

「聖霊が～言われた」

宣教は、熱意だけでは続きません。聖霊の導きが必要です。聖霊が繋げる関係です。

【ローカルチャーチからグローバルチャーチへ踏み出すとき、恐れや不安は必ずありますが、聖霊が語られるなら、そこに安心と保証があります。】

準備

- ・聖霊による祈りが中心にある教会
- ・教会全体での一致
- ・従順の決断

#### ⑤「クリスチャン」と呼ばれる本質を一人ひとりが持つ

使徒 11：26

弟子たちは、初めてアンティオキアで「クリスチャン」と呼ばれた。

宣教の拠点になる前に、彼らは「キリストに属する人々」として知られていました。

【世界に影響を与える前に、まずキリストに似る者となること。】

準備

- ・心を堅く保つ→方向を失わない(ひまわり)
- ・主にとどまる→イエスさまにつながり続ける(Wi-Fi)
- ・励まし合う→燃え続ける(炭火)アンティオキアは、

#### ●まとめ【牧師からひとこと】

岡崎ホープチャペルは、最初から大きなビジョンを持っていたわけではありません。

祈る教会となり、4本柱を軸に多様性を受け入れ、育て、送り出し、聖霊に従ったとき、そこには世界宣教の門が開かれていきました。

これからも、やることは一緒だと信じます。ハレルヤ！

